

東日本ユニオン

TOKYO

JR東日本労働組合東京地方本部

発行責任者 福田 高夫

発 行 東京地方本部教宣部

2016年 8月 10日 NO. 31

JR労働運動の大同団結・一元化に向け 全力で取組むスタートとなる大会！ 第4回定期大会！

7月28日、ホテルラングウッドにおいて「第4回定期大会」を開催しました。

大会には200名を超える組合員が結集し、「安全の確立」「2016春闘」など、一年間の取り組みの総括と、労働組合の第一義である「労働条件の向上」にむけて、JR労働運動の大同団結にむけて揺るぎない東日本ユニオンの団結と闘う方針を確認しました。

多くの代議員から熱き発言の数々！

- 各系統で進められている効率化施策の弊害
- 煩雑化する安全ルールの存在
- 担い手不在の技術継承
- エルダー制度がすでに「破たん」している事象も明らかに！
- 労働条件の向上を求める組合員、社員の要求を通じた大同団結をめざすべき
- 2016春闘では職場活動を通じて大同団結の端緒を勝ちとった

東京地本からは、川崎発電所の室岡代議員が発言！

- 将来を担う私たちは「賃金の向上」「安全問題」について、共に話し合い、ひとつでも共に行動できる仲間を創り出していく
- 労働組合として、当たり前の取組みを無心に見える形で地道に取組むことを通じて、若い社員の信頼を勝ち取っていく
- 職場では、訓練用システムが導入されるらしい。必要ではあるがシステムのみに頼る技術継承はあり得ない
- いろいろな事象に対して想定できるベテラン社員とコミュニケーションを取り技術を継承していく環境を、日ごろにおいて「共に考え、共に行動して」創っていくことが技術継承だと考える

次世代の社員に信頼される東日本ユニオンを全組合員で創り出していこう！